

# 会議録(要旨)

会議名等	令和6年度当事者会 4月定例会	文責	障がい福祉室
日程	令和6年4月18日 午後1時30分～3時30分	場所	メイシアター 集会室

## 1. 令和6年度当事者会の体制について

当事者会2月定例会において、役員会への立候補者または推薦者を募ったところ、A委員から立候補があった。役員会において協議し、令和6年度中に限りA委員に役員会のサポート的役割として参加いただくのはいかがでしょうか、との意見となった。3月定例会において委員に意見を仰いだところ、出席委員全員から承認を得る。3月定例会はA委員が欠席だったため、4月定例会においてA委員に意向を確認し、承認を得た。

## 2. 令和6年度当事者会の活動について

### 【協議内容】

令和6年度の目標である「防災ハンドブック」の完成に向けて、スケジュールの確認及び内容の検討を行った。

### 【意見】

- ・「防災ハンドブック」を誰に、どのように配布するか、念頭に置く必要がある。
- ・誰の目線で、どのような人に向けて発信するか定める必要がある。
- ・初めて読む人にも負担にならず、手に取りやすいボリュームにする必要がある。
- ・カラーで、見出しがよくわかるようにし、情報が目に入りやすいものにしたい。
- ・他市であるが、つくば市(茨城県)、土浦市(茨城県)、八王子市(東京都)の防災ハンドブックが分かりやすいので、参考にしてほしい。
- ・当事者が相談できる先を知ってほしい。家族会や障がい者団体の情報を掲載してほしい。
- ・能登半島地震の際、当事者は在宅避難を選択することがほとんどであったと聞いている。現在のたたき台は在宅避難に関する内容が少ないので割合を大きくするべきではないか。
- ・民生委員、近隣住民、病院・医療機関などの地域との連携について内容を増やしてほしい。
- ・避難所において「こうしたほうがいい」「こんなふうに避難所を作ってほしい」など、当事者の意見を載せてほしい。
- ・配布方法について、窓口や対面配布だけでなく、インターネットやスマートフォンでの配布や、動画コンテンツ等を利用した啓発方法も検討したい。
- ・視覚障がいのある方にとって、ハンドブック(紙面)による配布は意味がないのでは。
- ・視覚障がいのある方は、音声認識や読み上げソフト、既存のアプリケーションを活用すれば、紙面で配布した場合も内容を確認できるのではないか。
- ・紙媒体は保管、運搬が不便な点がある上に、障がいによっては内容の認識・理解が難しい場合がある。携帯やパソコンで見ることができる仕様も検討したい。
- ・QRコード等を用いて、当事者会の活動紹介や、災害時の有益な情報にリンクさせてほしい。
- ・「防災ハンドブック」の内容、文章を作っていくのは誰になるのか。

### 【結論】

「防災ハンドブック」の作成は主に役員会が担うものとする。主な流れは以下とする。

- ① 役員会で内容作成
- ② 作成した内容を定例会で報告
- ③ 委員から意見を収集し、修正

### 3. その他

各会議の内容について、参加委員から報告を行った。

- ・吹田市地域自立支援協議会全体会議における報告
- ・吹田市 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム専門部会における報告
- ・吹田市障がい者差別解消支援専門部会における報告
- ・吹田市バリアフリー推進協議会における報告

以上